

# 地区社協だより

第49号

発行日 令和8年2月15日  
発行 西諫早小学校区  
社会福祉協議会  
発行責任者 林田弘喜  
(電) 0957-26-6122



明けましておめでとーございませう

西諫早小学校区社会福祉協議会

会長 辻 良彦

新年あけましておめでとーございませう。

皆様におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えることお慶び申し上げます。

また、日頃より本会の運営並びに事業活動に對しまして、「ご理解とご支援を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの影響を受け、これまで午前中開催としていました「ひとり暮らし高齢者の集い」も、昨年11月に地域関係団体の方々の協力のもとにコロナ禍以前と同様のプログラムで行うことができ、風食休憩時には楽しく歓談する等、多くの皆様に喜んでいただき、大変うれしく思います。

これからも、行政・民間事業者・住民が互いに協力して、地域づくりを進めるため、「人と人とのつながり」を大切に、住民主体の手づくりの地域福祉活動への取り組みを進め、安全で安心して暮らせる地域づくりを目指します。

今後、地区社協の地域福祉活動に對し、皆様方からの温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

結び、皆様にとりまして、この一年が幸多き年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年のあいさつとさせていただきます。

## ひとり暮らし高齢者の集い

中尾町 中村 信孝

我が西小学校区では社会福祉協議会から昨年に続き「ひとり暮らし高齢者の集い」のご案内に喜々としてお隣近所お誘い合わせて出席のところ、優しい地元有志の皆様から歌や、踊り、楽器の演奏、それに豪華お弁当付きでの楽しい「激♥」の嬉しいひと時に胸がジーン……感激！でした。

## ひとり暮らし高齢者の集いに参加して

山川町 柴原 睦子

11月13日、ひとり暮らし高齢者の集いに、近所の人達と、誘い合って参加しました。会場入口からエレベーターの案内・受付・席への誘導など、民生委員やボランティアの方々、笑顔で声をかけて下さり細かいところまで気を配っていただきました。

内容も、園児の太鼓やダンス・小学生の合唱、二胡やフルートの演奏・踊り等々バラエティーに富んでいて、思わず手拍子をとりながら演者と会場との一体感を楽しみました。

お昼休みには、同席の人達とひとり暮らしの知恵を出し合ったり、失敗談を笑ったりして美味しくお弁当を頂きました。

「ひとり暮らしは、ポッチではない。地域には支えてくれる仲間がいる。悩みを話せる友がいる。そして私も、微力ながら誰かの支えになりたい。」その様に感じた一日でした。

この集いの運営に係わったり、出演して下さいた沢山の方々、心よりお礼を申し上げます。有難うございました。

小船越町 高尾 美代子

「朗朗会」のメンバー、山口健二さん、西岡正則さん、そして私の3人で「石仏巡り紹介」をしました。

初めは不安な気持ちでいっぱいでしたが、静かに聞いて下さっている皆様の温かい眼差しを感じた時、それは安堵の気持ちへと変わりました。

幾重にも重なったよだれ掛けに先人たちの想いを感じ、風化したその姿に歴史を見る石仏巡り。これを機に興味を持ち、「行ってみたい」と思っ頂けたら嬉しいです。



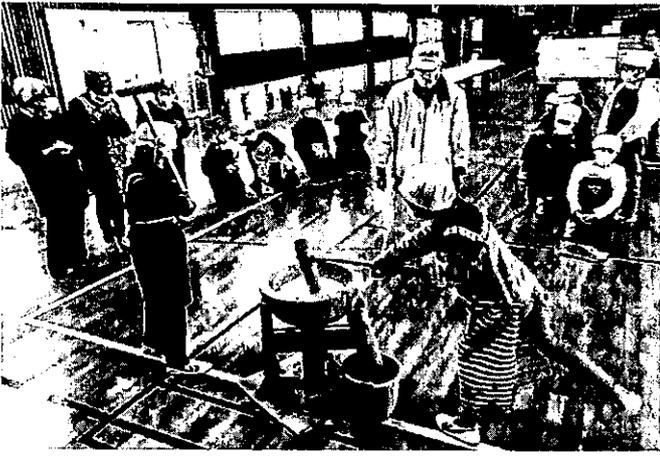
# 西小もちつき

もちつき

西諫早小五年 坂本 桃音

私はもちつきをして食べてみて、みんなで協力して何かを作ったりすることの大切さを知りました。

お店に売ってあるおもちも、これだけ大変なことをして作られていることを知りました。もちつきをする時、最初は、力を弱くしていたけどそれだけでは全然つぶれなくて強くないともちつきはできないことを知りました。とてもべんきょうにな



りました。教えていただきありがとうございました。うございしました。

おいしかったもち

西諫早小五年 菊田 愛莉

私が楽しいと思ったことは、もちをつくことです。きねを持って同じクラスの人とごごにもちをつきました。と中でもちをつくタイミングがあわなくなってしまうことがありました。すると地域の方が、声を出してください、タイミングよくもちを上手につくことができました。次にもち丸めをしました。最初はきれいな丸の形になりませんでした、これも地域の方がコツを教えてくださいました。最後はきれいに丸めることができました。最後にみんなでついて、丸めたもちを食べました。もちもちしておいしかったです。

地域のみなさんと

西諫早小五年 川内 俊太郎

ぼくは、十二月十九日学校の行事で地いきのみなさんともちつきをして気づいたことがあります。

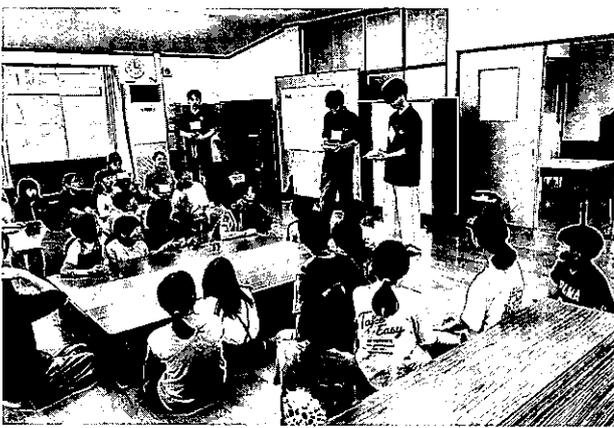
一つ目は、地域の人のやさしさです。ぼくはいつもあいさつをしたり

# 西諫早小学校 小船越通学合宿

鎮西学院大学 濱迫 響太郎

コロナ禍による中断を経て、通学合宿が再開されたこの3年間、私は大学生として実行委員として、その再出発を共にさせていたできました。

当初は手探りの連続で、不安も大きかったですが、回を重ねるごとに地域の中で子どもたちが親元を離れ、仲間と過ごす子どもたちの明るい表情を見るたび、再開できて本当に良かったと心の底から感じました。通学合宿は決して「楽しいだけのお泊り会」ではあ



りませんでした。子どもたちは、生活習慣の違い、仲間との衝突、親元を離れた1週間、多くの「壁」に直面しました。私たちがスタッフはすぐに手を下さず、子どもたちが悩みながら、仲間と折り合いをつけ、自ら解決策を模索する姿を見守り続けました。

「地域の子どもは地域で育てる」便利な時代だからこそ、地域の中で人間関係の難しさ、温かさの両方を知るこの場所は不可欠です。私の活動はここで区切りとなりますが、西諫早地区の通学合宿が、これからも子どもたちの居場所として続いていくことを心から願っています。

みんなとすごした5泊6日

西諫早小五年 棧 奏子

私が通学合宿に行って、楽しかったことが二つあります。一つめは夜ねる前に、みんなでレクをした事です。毎日ちがった遊びをして、いろんな人との仲も深まり、とても楽しかったです。二つめは、みんなとご飯を食べたことです。友達や大学生と話しながら

するだけであまりかわつたりして  
いませんでしたが、もちつきをして  
交流することでふだん話したりしな  
い人とも話すことができずごく楽し  
かったです。

二つ目は、体験することの大切さ  
です。ぼくは、ようち園のころ、一

## 「未来へつなぐ」西諫早小学校創立50周年

西諫早小学校育友会 会長 中村 真也

西諫早小学校は今年で創立50周年  
を迎えました。それに伴い、令和7

年11月30日に創立50周年記念式典を  
開催し「来賓の皆様、児童、教職  
員、地域の方々、保護者、卒業生な  
ど西諫早小に関わる多くの方々にご  
出席いただき節目の年をお祝いいた  
しました。児童による司会・学年別  
の発表・未来へのメッセージなど、  
50年目の子ども達が主役となる内容  
で、心に残る素敵な式典となりました。  
ご出席いただいた関係者の皆様  
ありがとうございました。

式典後には、人權の花運動として  
ひまわりの種と子ども達のメッセー  
ジを付けたバルーンを児童全員で一  
斉に中庭から大空へ飛ばしました。  
ひまわりの種とメッセージが遠くの  
人の手に渡る事を想像する事で、自

度ももちつきをしたことがあるので  
すが、大人の人たちとしていたけれ  
ど、今回のもちつきでは自分の力だ  
けでせねを持ってつくることができ  
ても成長を感じました。

もちつきができて、本当によかつ  
たです。

分だけではなく相手の気持ちを考え  
る良い体験となりました。

また、令和7年10月に西諫早小学  
校の上空より航空写真を撮影いたし  
ました。50周年で新たに誕生した西  
小のキャラクター「まもるちゃん」  
と「2025」の文字を児童を中心  
として運動場に描き、令和7年現在  
の西諫早小学校周辺と一緒に写真に  
収めました。

50周年の締めくくりとして、令和  
8年3月に式典の様子を含めた記念  
誌を発行いたします。学校だけでは  
なく様々な方々の温かい支えがあり  
西諫早小学校は50年の歴史を重ねて  
きたのだと感じながら記念誌を制作  
しています。これまで西諫早小学校  
に関わった様々な方の想いが詰まっ  
ており完成が楽しみです。

今後、西諫早小学校が60年、70年

食べて、楽しかったです。しか  
し、大変なこともありました。そ  
れは料理を作ったことです。切っ  
たり、ませたりの作業がとても大  
変でした。毎日ご飯を作ってくれ  
るお父さんやお母さんの大変さを  
実感しました。このような楽しい  
時間をすごすことができたのは、  
協力してくださった地域の方々大  
学生のおかげだと思います。日常  
とはちがった貴重な体験をさせて  
くださり感謝しています。本当に  
ありがとうございました。



かるようにしました。

お父さん、お母さんにも相談し、  
色や花のしゅるいをきめました。

西諫早小学校の子をまもってくれ  
る、まもるちゃん。まもるちゃん  
のことをすきになってくれたら、うれ  
しいです！

西諫早小三年 石井 このは

まもるちゃんを作るときに一番大  
切にした事は西小らしさです。だれ  
がみても西小のキャラクターだと分



バルーンリリース



「西小ゆるキャラ」の誕生



西小をまもるちゃん

## サロン紹介

### 地域のお宝紹介

北部地域包括支援センター  
生活支援コーディネーター 田浦 英子

昨年12月7日、諫早文化会館にて、介護予防と生活支援の地域づくりフォーラムが開催されました。第一部では、市内の地域活動5団体が登壇し、普段の集いで取り組んでいることを、観客700名の前で披露されました。今回、小船越町二区ふれあいいきいきサロンの20名が登壇。会場の笑いを誘いながら、脳下し体操、笑いの体操、歌を堂々と披露されました。観客も一緒に参加し、一体感のある素晴らしい舞台でした。小船越町二区サロンの特徴は、毎回実施する5つの介護予防体操プログラムや参加者の特技をいかした活躍の場づくり、そして、笑い声が絶えないところだと思えます。まさに、高齢者がいきいきと、元気になる「地域のお宝」です。



## 佐賀県唐津市鏡校区社会福祉協議会を訪ねて

### 西諫早小学校区社会福祉協議会が訪問交流

西諫早小学校区社会福祉協議会では初秋の青空の下、令和7年10月9日佐賀県唐津市内に向き、唐津市鏡校区社会福祉協議会との交流会を開催した。

鏡校区は、唐津市の東部に位置し、鏡、半田、宇木、原・柏地区の4つの集落からなり、毛利会長以下140名の会員の方が、高齢者部会、児童部会など6部会を構成して、高齢者の在宅福祉や生活環境の整備・美化事業に取り組んでいる旨の説明を受けた。交流会では、10名の役員と市社会福祉協議会職員2名の計12名の方々が対応していた。

両協議会長のあいさつに続き、当社協から、①一人暮らし高齢者支援、②生活ボランティア支援など10項目にわたる取り組みについて説明の上、取り組みの難しさなどの課題について、意見交換した。また、鏡校区社協から校内の危険箇所の点検や清掃事業について、大雨時の側溝と通学路の境界の表示や虹ノ松原海岸清掃など地区の特性やニーズに応えた取り組みを行っている旨の説明を受け

た。当面の課題である一人暮らし高齢者の日常把握については、高齢者の方々にこちら側から積極的な声かけを行い、かつ、我々が健康で、事故防止に配慮しながら、できることから取り組み、ひとつでも活動に生かしていこうと総括した。

交流会は予定時間（1時間30分）をオーバーしてしまうほど熱気ある意見が交わされた中で終了した。

交流会を終えて、唐津の幸に舌鼓を打ち、さわやかな秋風を感じながら、決意を新たに唐津市をあとにした。

最後に、研修会開催に際し、最初から最後までお世話いただいた当協議会の事務局員の方に感謝申し上げます。



## 退任あいさつ

山口 健二

見守りは自分を写す鏡。サロンは頭、脳の活性化。ひとり暮らしはお得。ラインで繋がる連帯感。ボランティアだから良い。

### 感謝

菅谷 正

私は昨年11月をもって民生委員・児童委員を退任しました。12年にわたり無事にやってこれたのは、皆様方の温かいご支援とご協力のおかげだと感謝しています。私にとっては楽しい期間でした。どうもありがとうございました。

### 民生委員児童委員を退任して

鈴木 ムツエ

5期15年間、微力ながら民生児童委員をさせていただきました。ありがとうございました。

朝7時から通学路での登校見守りを毎日してきました。子ども達の元気な姿、行ってきますの挨拶に活気・元気をもらいメリハリのついた生活が日々元気に過ごせました。ありがとうの感謝のみです。地域の方々からいろいろな面で支えていただき又、会話をかわすことが出来ました。子ども達が事故がなく通学出来たことに喜びを感じております。一生の宝です。ありがとうございました。

## 後記

2026年の新年を迎えました。干支は「丙午（ひのえうま）」です。太陽のようにはっきりと、馬のように力強く走り抜く年と言われています。今年も高齢や病を撥ね除け、元気で頑張りましょう。皆様の元気で楽しい記事を沢山お届けしたいと思えます。どうぞお楽しみに。インフルエンザのために皆さんへの原稿依頼が遅くなり、本誌の発行がひと月遅れとなりました。ご了承ください。

広報部